

行政の窓

道産原木の輸出の取組について

1. 道内港湾からの原木輸出について

財務省が公表している「貿易統計」によると、平成25年度に道内の港湾から輸出された原木は、針葉樹と広葉樹を合わせると、約15千m³となっています。これは、統計が残っている昭和53年度以降では、昭和58年度の17千m³、昭和59年度の16千m³に次いで多い数量です。近年の原木輸出状況は、平成20年度以降、下表のとおりとなっています。国際情勢や輸出先国における需要動向や木材調達事情の変化など様々な要因により、道産原木の輸出量や輸出港湾、輸出先国は毎年変動しています。

2. 留萌港からのトドマツ原木の輸出について

平成26年6月2日、留萌港から韓国にトドマツ原木1,850m³が輸出されましたので、その取組を紹介します。

(1) 留萌地域における地域材販路拡大の取組

留萌流域の森林・林業関係団体等を構成員とする「留萌流域森林・林業活性化協議会」（以下「協議会」）では、留萌流域の人工林資源の4分の3を占め、利用期を迎えているトドマツ人工林資源の利用を推進するため、平成25年5月に「留萌材の販路拡大のための実行計画」を策定しました。この実行計画の取組のひとつとして、留萌港等からの販路拡大を展開する取組が位置づけられ、これまで、木材の流通状況や供給可能量の把握、移輸出先の木材需要状況に係る情報収集、日本海側拠点化形成促進港である留萌港を活用した移輸出の可能性の検討などに取り組んできました。

(2) 留萌材輸出の経緯

国内の木材需要量の8割以上を輸入材の供給で賅っている韓国では、ロシアの輸出関税上げの影響により、ロシア材輸入量が近年急減していました。このような中、留萌流域の充実したトドマツ資源に商社から引き合いがあり、これまでの協議会の取組とも一致したことから、平成25年12月の試験的輸出を経て、今回の本格輸出に至りました。

近年、留萌港は、ロシアからの広葉樹原木の輸入や、本州への合板用原木の移出に使用されていますが、今回の留萌材輸出をきっかけに、今後、地域での森林資源の循環利用や、地域経済の振興に発展することが期待されています。



(平成26年6月2日撮影)

(水産林務部林務局林業木材課林業木材グループ)